



せい らん
青 藍

瀬戸内町立篠川小中学校
令和2年2月14日発行

校訓 ～明るく 正しく たくましく～
～ 自律和親 ～

2月号



支え，聴くことの大切さ

校長 中原 誠

万羽鶴の北飛行，鬼火たきや節分での邪気払い，無病息災を願う各地のダゴ祭り，落ち葉の中から顔を覗かすフキノトウの話題等，季節は確実に冬から春へと移っているようです。「春に三日の晴れなし」と言われますが，三寒四温を繰り返し，暖かい春がやって来るのでしょうか。

保護者，地域の皆様，今日も一日お仕事お疲れ様でした。ご苦労さまです。

時節を表す言葉，行く1月，逃げる2月，去る3月とはよく言ったものです。2月に入り節分，自分の弱い鬼を退治しよう！と豆まきをして，気づけばもう2月の半ばです。これから，弥生3月，高校入試，そして卒業式へ暦は移っていきます。

さて，学校の方はこの間，鹿児島学習定着度調査や百人一首大会，中学3年生にとっては人生初の受験，私立高校の入試がありました。鹿児島学習定着度調査は小学5年，中学1年が実施しましたが，町（地区）の目標点を遙かに超えていました。日頃の授業の充実，問題等への対策等指導する先生と前向きに真剣に取り組んだ子ども達の結果と言えます。百人一首の上の句を読みながら今から40数年前社会の授業で，「天の原 降りさけ見れば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」の句を習ったこと思い出しました。また，中学3年生の私立受験の「合格」はこれまでの本人の学習の取組や努力の結果だと思いますが，これからが本番，「合格」は中学校生活での大きな目標であり大きな節目になりますが，人生の中では1つの通過点に過ぎません。高校生活は，これからの長い人生をどう歩んでいくか，謂わば「自分探しの旅」かもしれない。充実した「自分探しの旅」に役立つよう，次の公立高校入試に向け，「あれだけ勉強した！！」と自分に自信が持てるよう努力し臨んでほしいと思います。

ところで，先日町学校保健・安全研究大会で「折れない心を育てるいのちの授業」の講演を聴きました。その内容を紹介します。

生きていく中で様々な困難に遭遇し苦しみを感じる・・・と。その「苦しみ」は希望と現実の開きが大きければ大きいほど，辛くなる。「苦しみを」を2つに分けると，解決できる苦しみと，解決できない苦しみがある。解決できない苦しみは「自分1人では，どうしようもない場合が多いが，「支え」があれば，支えがあることが分かれば心が穏やかになる。苦しんでいる人は，自分の苦しみを「分かってくれる人」がいると嬉しい。「分かってくれる人」とは，「聴いてくれる人」ということでした。人を大事に，どうしたの？と聴いてあげられる人になりたいと思うことでした・・・